

令和元年度 施策評価シート

基本目標		新しい事業が起き、人が集まる「すみだ」をつくる
政策	310	新しい価値を創造し、産業の進化・発展を図る
施策	313	「ものづくりのまち すみだ」をプロモーションする
施策の目標		すみだのものづくり企業が、技術やデザイン等、クオリティの高さをもって付加価値の高い商品を生みだし、その商品をさまざまな手法でプロモーションすることにより、国内外に広く販路が拡大しています。また、国内外からすみだを訪れた人々が、ものづくり体験や買い物を楽しんでいます。

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	すみだ地域ブランド戦略ホームページの延べアクセス数									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	4,840				7,500					10,000
実績	4,060	3,436	2,710							

指標名	区内製造業における付加価値額									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標					160,000					170,000
実績	149,157									

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移(千円)	
付加価値の高い商品を生み出し、さらに販路拡大していくためには、意欲ある事業者の積極的・横断的な取組を促すとともに、これらが国内外でなお、一層認知されるようになる施策を展開していくことで、施策目標の実現を目指す。認知度の向上を図る指標として、ホームページのアクセス数としているが、SNSの利用増加に伴い、ホームページへのアクセス数は減少している。	H28	67,495
	H29	70,141
	H30	69,964

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
D	各事業及び関係する区内事業者の取組は魅力的であるものの、効果的な発信を十分に行えていないことから期待する効果を得るまでには至っていない。

4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
東京オリンピック・パラリンピックを見据え、「新しいものづくりのまち」としての墨田区のブランディングを図っていく必要がある。	
【今後の具体的な方針】	
産業と観光の融合を図りながら、区内事業者間、各事務事業間の連携を更に進め、社会状況の変化や事業の硬直化を防ぐための見直しを行いながら地域全体として認知されるプロモーションを強化していく。	

事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	すみだブランド認証事業への応募点数				単位	点
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		80	37	目標	80	80	80	80
				実績	89	61	53	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	80	80	80	80	80	80	
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	事業実施にあたっては幅広い事業者からの応募が必要である。また、毎年の認証点数に規定はないものの、審査において適当な認証倍率、認証商品の質を保つためにも、設定した程度に応募点数が必要であると考ええる。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	認証商品・飲食店メニューの認知度の向上				単位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
70		37	目標	70	70	70	70	
			実績	74	74	46		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	70	70	70	70	70	70		
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
ブランド認証事業において、対象商品及びメニューの認知度向上は一つの成果となる。数値の裏付けとして、毎年、前年度の認証事業者に対し認証後の動向につきアンケートを取っている。目標値としては対象事業者数から、70%程度が妥当と考える。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	認証事業者アンケートの結果から本事業が効果の評価を得ていることが分かるが、その数字は下降傾向にある。また、開始から10年近く経過していることを踏まえ、事業全体を見直す必要がある。

課題・問題点
<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政による地域ブランドの立ち上げを行った事業であるが、このまま行政が続ける必要があるか検討する必要がある。 ・ブランド認証の基準にブレが生じており、認証基準が曖昧になっているため見直す必要がある。 ・地域ブランド事業の成果基準を明確にする必要がある <p>このほか協議会で挙げられているいくつかの課題を踏まえ、地域ブランド戦略全体のあり方を見直す必要がある。</p>

補助金名称	すみだ地域ブランド推進協議会運営補助金			主管課・係(担当)
根拠法令	すみだ地域ブランド推進協議会運営補助金交付要綱			産業振興課・産業振興担当
補助概要	「すみだモダン」認証事業において、事業推進団体であるすみだ地域ブランド推進協議会へ補助金を交付する。			03-5608-6188
目的	すみだ地域ブランド推進協議会の運営に必要な経費の一部を補助することにより、協議会の積極的な活動を促進し、並びに地域ブランド力向上による中小企業の産業振興及びネットワーク構築を図り、もって地域経済の発展と活性化に資することを目的としている。			
対象	すみだ地域ブランド推進協議会			
基準	区独自基準			
補助条件	この補助金の交付の対象は、協議会が行う次に掲げる事業に要する経費とする。 (1) 「すみだモダンブランド認証事業」の企画及び運営に関する事業 (2) 地域ブランド力向上に関する事業 (3) 中小企業の産業振興及びネットワークの構築に係る事業 (4) その他区長が適当と認める事業			
経過	開始年度	平成25年度	終了予定	特になし
	平成25年度に要綱制定。以降、予算額に応じて毎年度補助金を交付している。			
議会質問の状況	特になし			
その他特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 特になし			

予算・決算額推移(千円)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
予算額(事業費)		5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	4,400
決算額(令和元年度は見込み)		4,784	4,797	4,998	4,983	5,000	4,400
財源	国						
	都	0	0	2,351	2,299	2,302	2,200
	その他						
一般財源		4,784	4,797	2,647	2,684	2,698	2,200
執行率(%)		95.7%	95.9%	100.0%	99.7%	100.0%	100.0%

補助金の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	すみだブランド認証事業への応募点数				単位	点	
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
		80	70	目標	80	80	80	80	
				実績	89	61	53		
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		目標	80	80	80	80	80	80	
		実績							
		指標の選定理由及び目標値の理由							
		事業実施にあたっては幅広い事業者からの応募が必要である。また、毎年の認証点数に規定はないものの、審査において適当な認証倍率、認証商品の質を保つためにも、設定した程度に応募点数が必要であると考え。							
		補助金の 成果	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	認証商品・飲食店メニューの販売金額の向上				単位
最終目標値	目標年度				基準年(H28)	H29	H30	R1	
60	37			目標	60	60	60	60	
				実績	62	58.5	40.5		
	R2			R3	R4	R5	R6	R7	
目標	60			60	60	60	60	60	
実績									
指標の選定理由及び目標値の理由									
ブランド認証事業において、対象商品及びメニューの販売金額の向上は一つの成果となる。数値の裏付けとして、毎年、前年度の認証事業者に対し認証後の動向につきアンケートを取っている。目標値としては対象事業者数から、60%程度が妥当と考える。									
評価結果				評価についての説明・今後の方向性等					
改善・見直しのうえ継続		認証事業者アンケートの結果から本事業が一定の効果を得ていることが分かるが、その数字は下降傾向にある。また、開始から10年近く経過していることを踏まえ、事業全体を見直す必要がある。							

課題・問題点	
<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政による地域ブランドの立ち上げを行った事業であるが、このまま行政が続ける必要があるか検討する必要がある。 ・ブランド認証の基準にブレが生じており、認証基準が曖昧になっているため見直す必要がある。 ・地域ブランド事業の成果基準を明確にする必要がある <p>このほか協議会で挙げられているいくつかの課題を踏まえ、地域ブランド戦略全体のあり方を見直す必要がある。</p>	

補助金名称	新商品・新技術開発補助金			主管課・係(担当)
根拠法令	墨田区新商品・新技術開発支援要綱			産業振興課・産業振興担当
補助概要	ものづくりコラボレーション事業の参加事業者を対象として、区内中小企業又はグループが行う新商品・新技術の開発・研究に対し、開発経費等の一部を助成する。			03-5608-6188
目的	区内中小企業又はそのグループが行う新商品・新技術の開発・研究に対し、コンサルティングの実施及び開発に要する経費の一部を助成することにより、商品の企画や開発力の強化・育成及び販路の開拓・拡大を図るとともに、技術の改善に資することを目的とする。			
対象	<p>支援の対象は、次に掲げる要件を全て備えているものとする。</p> <p>(1) 区内に主たる事業所を有する企業又はグループの構成企業の2分の1以上が区内に主たる事業所を有し、引き続き1年以上事業を営んでいること。ただし、次条第3項に係る支援については、区内に主たる事業所を有し、区内で引き続き1年以上事業を営んでいる者に限る。</p> <p>(2) 前年度の法人都道府県民税(個人企業にあつては市区町村民税)を滞納していないこと。</p> <p>(3) 中小企業基本法(昭和38年法律第154号)第2条第1項に規定する中小企業者であること。</p> <p>(4) 墨田区暴力団排除条例(平成24年墨田区条例第37号)第2条第2号に規定する暴力団員又は同条第3号に規定する暴力団関係者が経営に関与していないこと。</p>			
基準	区独自基準			
補助条件	<p>支援対象の要件は、次に掲げる要件をすべて備えているものとする。</p> <p>(1) 原則として、未発表のオリジナル企画であること。</p> <p>(2) 原則として、他の公的助成を受けていないものであること。</p> <p>(3) 当該年度の末日までに商品化又は技術開発に係る試作品等一定の成果物が確認できるものであること。</p>			
経過	開始年度	平成21年度	終了予定	特になし
	<p>【補助実績】</p> <p>平成30年度 7件 合計 2,969,000円</p> <p>平成29年度 6件 合計 2,215,000円</p> <p>平成28年度 6件 合計 1,839,000円</p> <p>平成27年度 14件 合計 2,992,000円</p> <p>平成26年度 9件 合計 2,532,000円</p>			
議会質問の状況	特になし			
その他特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 特になし			

予算・決算額推移(千円)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
予算額(事業費)		3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600
決算額(令和元年度は見込み)		2,532	2,992	1,839	2,215	2,969	3,600
財源	国						
	都	0	0	919	1,107	1,484	1,800
	その他						
一般財源		2,532	2,992	920	1,108	1,485	1,800
執行率(%)		70.3%	83.1%	51.1%	61.5%	82.5%	100.0%

補助金の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	ものづくりコラボレーション選定事業者数			単位	社	
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		150	37	目標	15	15	15	15
				実績	23	26	24	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	15	15	15	15	15	15
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	多数の事業者の参加が、区内企業の商品力向上に繋がるため。 3人のコラボレーターが、5事業者程度のマッチングを目標とする。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	ものづくりコラボレーション開発商品数			単位	商品	
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		60	37	目標	6	6	6	6
				実績	10	12	8	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標		6	6	6	6	6	6	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
新商品開発を支援するための補助金であるため。 3人のコラボレーターが、2商品程度の開発を目標とする。								
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
改善・見直しのうえ継続		毎年度新商品が開発されていることから一定の効果を得ていることが分かるが、その数字は下降傾向にある。また、開始から10年近く経過していることを踏まえ、事業全体を見直す必要がある。						

課題・問題点	
<p>商品開発の原材料費のほか、販路開拓についても補助対象としているため、決定支給時期について検討する必要がある。</p> <p>また、事業全体の見直しに合わせて、当補助金の継続可否を検討する必要がある。</p>	

補助金名称	墨田区ものづくりイベント補助金			主管課・係(担当)
根拠法令	墨田区ものづくりイベント補助金交付要綱			産業振興課・産業振興担当
補助概要	すみだブランド認証事業者又はそのグループが参画して実施するイベント等事業に対して、150万円以内、10/10の補助金を交付する。			03-5608-6188
目的	すみだブランド認証事業者又はそのグループが参画して実施するイベント等事業を支援することにより、活力あるものづくりの機運の醸成、区内産業の活性化を通じて、ものづくりのまちとしてのすみだの知名度及びその付加価値の向上を図ることを目的とする。			
対象	次に掲げる要件を全て備えているものとする。 (1) すみだブランド認証事業者又は2分の1以上がすみだブランド認証事業者で構成されるグループであること。 (2) 中小企業基本法(昭和38年法律第154号)第2条第1項に規定する中小企業者又は区内の中小企業を主たる構成員とする一般社団法人若しくは一般財団法人であること。 (3) 補助対象事業者の構成員が法人都道府県民税又は市区町村民税を滞納していないこと。 (4) 補助対象事業者の構成員が暴力団員(暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成3年法律第77号)第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。)でないこと。			
基準	区独自基準			
補助条件	次に掲げる要件を満たすものとする。 (1) 補助対象事業者が主催し、及び実施する事業で、次に掲げるものであること。 ア すみだブランド認証商品を含む区内産品の販路の開拓又は拡大に資する事業 イ 区内の地域活性化や回遊性向上に資する事業 ウ 原則として区内で実施される事業 エ その他区長が産業振興上適当と認める事業 (2) 宗教的又は政治的色彩を有していないものであること。 (3) 他の公的助成を受けたもの又は協賛金を募ったものでないこと。 (4) 事業の実施に当たり、公衆衛生、災害防止等の観点から、十分な措置が講じられたものであること。 (5) 入場料、参加料等が事業に要する経費を勘案して適切なものであること。 (6) 事業に係る出店者等及び委託事業者が暴力団員でないこと。			
経過	開始年度	平成25年度	終了予定	特になし
	【補助実績】 平成30年度 3件 合計 2,300,000円 平成29年度 4件 合計 2,300,000円 平成28年度 4件 合計 2,100,000円 平成27年度 4件 合計 2,300,000円 平成26年度 2件 合計 1,600,000円			
議会質問の状況	特になし			
その他特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 特になし			

予算・決算額推移(千円)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
予算額(事業費)		3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	0
決算額(令和元年度は見込み)		1,600	2,300	2,100	2,300	2,300	0
財源	国						
	都	800	1,105	972	1,064	1,052	
	その他						
一般財源		800	1,195	1,128	1,236	1,248	0
執行率(%)		53.3%	76.7%	70.0%	76.7%	76.7%	#DIV/0!

補助金の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	スミファ参加者数				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		40,000	37	目標	4,000	4,000	4,000	4,000
				実績	4,500	4,500	4,500	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	多くの参加者が参加することによって、ものづくりもまちとしての知名度の向上に寄与できたかどうかの指標となるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	スミファ参加事業者の満足度				単位	%
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		70	37	目標	70	70	70	70
				実績	70	73.6	70	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標		70	70	70	70	70	70	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
スミファの実施によって、参加した事業者の満足度の高さが、ものづくりのまちとしての知名度の向上に寄与できたかどうかの指標となるため。								
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
統合や縮小を検討		他の類似補助事業との統合する。						

課題・問題点	
<p>別事業において類似の補助制度があるため、それらを統合して区内産業の活性化を図る事業により効果的に支援できる仕組みを構築する必要がある。</p>	

施策	313 「ものづくりのまち すみだ」をプロモーションする	部内優先順位
事業名	3M運動推進費	2
目的	区内産業と区内生産品が「正当な評価」、さらに「より高い評価」を受けるようにするため、「小さな博物館(Museum)」「マイスター(Meister)」「工房ショップ(Manufacturing Shop)」を認定し、施設整備・改修費やPR活動等の経費の補助を行うことでイメージアップを図る。	主管課・係(担当)
		産業振興課産業振興担当 03-5608-1437
対象者	3M運動認定事業者	
根拠法令 関連計画	・小さな博物館支援要綱 ・すみだ工房ショップ支援要綱 ・すみだマイスターものづくり事業補助要綱	
実施基準	区独自基準	実施方法 直営 人員体制・委託先 常勤3
事業内容	1 「小さな博物館」運動推進経費 (1) 整備・改修補助 (2) 運営補助 人件費相当及び施設維持管理費 2 「工房ショップ」創出推進経費 整備・改修補助 3 「マイスター」運動推進経費 講習会等、技術の継承に資する活動の経費補助 4 3M運動推進PR経費 (1) 3M運動ガイドマップの作成(デザイン委託、印刷) (2) 3M運動PR実行委員会によるイベント等の経費補助 5 3M運動認定事業者向け講習会の実施	
経過	開始年度	昭和60年度 終了予定
	昭和60年度 事業開始 昭和61年度 小さな博物館認定開始 昭和63年度 モデルショップ認定開始 平成元年度 マイスター認定開始 平成10年度 工房ショップ認定開始 平成21年度～ 3M運動スペシャルウィーク 平成26年度 3M運動30周年祭 平成27年度 小さな博物館の土日開館に係る上乗せ補助を開始 平成30年度末 認定更新制の導入等のための要綱改正	
議会質問 の状況	[平成30年決算] 工房ショップにおけるキャッシュレス化について [平成30年2定] 小さな博物館とその他の企業博物館の連携について [平成28年決算] 外国人向けツアー及び外国語パンフレットについて [平成28年基本計画特別委] 観光回遊について [平成28年1定] ホームページの外国語対応について	
その他 特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 令和元年6月より認定更新制に伴う認定事業者へのヒアリング開始	

予算・決算額推移(千円)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算現額(事業費)	22,418	14,818	14,863	14,652	15,198	13,928
決算額(31年度は見込み)	20,740	11,713	12,286	12,454	13,298	13,928
財源	国					
	都					
	その他					
一般財源	20,739	11,713	12,286	12,454	13,297	13,928
執行率(%)	92.5%	79.0%	82.7%	85.0%	87.5%	100.0%

予算・決算の内訳(単位:千円)								
平成29年度(決算)			平成30年度(決算)			平成31年度(予算)		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
報償費	工房文化の都市企画委員謝礼	288	報償費	工房文化の都市企画委員謝礼	92	報償費	工房文化の都市企画委員謝礼	600
需用費	認定事業者講習会 講師謝礼	284	需用費	認定事業者講習会 講師謝礼	350	需用費	認定事業者講習会 講師謝礼	389
役務費	通信運搬料	42	役務費	通信運搬料	66	役務費	通信運搬料	92
委託料	3Mマップ(データ作成)	270	委託料	3Mマップ(データ作成)	432	委託料	3Mマップ(データ作成)	275
負担金補助交付金	特別: 工房ショップ整備・改修補助、マイスターものづくり補助	11,571	負担金補助交付金	特別: 工房ショップ整備・改修補助、マイスターものづくり補助	12,359	負担金補助交付金	特別: 工房ショップ整備・改修補助、マイスターものづくり補助	12,562

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	小さな博物館・工房ショップ・マイスター新規認定数				単 位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	H31
		3	37	目標	3	3	3	3
				実績	2	2	0	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	3	3	3	3	3	3	
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	区内産業の対外PRとしての拠点等が増えることがイメージアップにつながるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	小さな博物館への来館者数				単 位	人
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	H31	
39000		37	目標	36000	37000	37000	37000	
			実績	36313	38623	39305		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	38000	38000	38000	39000	39000	39000		
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
来館者数の増加により、本事業の認知度が高まり、区内産業と文化のPRにつながるため。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	産業と観光の拠点として注目度は高まっている一方で、認定事業者による活動状況の違い、多様な事業者が参加しているメリットを活かしきれていないこと等から、十分な成果を実感できるまでには至っておらず、更新制の導入等によって認定事業者のクオリティの維持・向上を図っていくほか、これらの実施結果も踏まえ、産業施策全体のブランディングの再構築を行う。

課題・問題点
1 認定事業者の活動状況の差 2 多様な事業者が参加する3M運動全体としてのメリットを活かしきれていないこと 3 すみだブランド等も含めた産業のブランディングに統一したコンセプトが必要であること

補助金名	小さな博物館運営補助金	主管課・係(担当)
根拠法令	小さな博物館支援要綱	産業振興課産業振興担当
補助概要	区内産業と区内生産品のイメージアップのために認定している「小さな博物館(Museum)」について、施設運営費の補助を行っている。	03-5608-1437
目的	区内産業と区内生産品が「正当な評価」、さらに「より高い評価」を受けるようにするため、「小さな博物館(Museum)」を認定し、施設運営費の補助を行うことでイメージアップを図る。	
対象	3M運動「小さな博物館」運営事業者	
基準	区独自基準	
補助条件	1. 運営補助 人件費相当及び施設維持管理費 月額2万円 土日開館の上乗せ 週5日以上かつ土曜日、日曜日いずれか開館 月額6,000円 週5日以上かつ土日開館 月額12,000円 2. 整備・改修補助 補助率10分の10、45万円限度	
経過	開始年度	昭和61年度
	終了予定	
経過	昭和60年度 事業開始 昭和61年度 小さな博物館認定開始 平成26年度 3M運動30周年祭 平成27年度 小さな博物館の土日開館に係る上乗せ補助を開始 平成30年度末 小さな博物館運営補助金見直し等のための要綱改正	
議会質問の状況	[平成30年2定] 小さな博物館とその他の企業博物館の連携について [平成28年決算] 外国人向けツアー及び外国語パンフレットについて [平成28年基本計画特別委] 観光回遊について [平成28年1定] ホームページの外国語対応について	
その他特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 令和元年6月より認定更新制に伴う認定事業者へのヒアリング開始	

予算・決算額推移(千円)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
予算額(事業費)		7,500	7,260	7,380	10,404	11,028	10,012
決算額(令和元年度は見込み)		6,940	6,690	8,459	9,193	8,960	10,012
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		6,940	6,690	8,459	9,193	8,960	10,012
執行率(%)		92.5%	92.1%	114.6%	88.4%	81.2%	100.0%

補助金の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	小さな博物館認定数(年度内合計)				単位	館
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		37	37	目標	29	30	31	32
				実績	29	29	29	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	33	33	34	35	36	37
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	区内産業の対外PRとしての拠点が維持・増加されることがイメージアップにつながるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	小さな博物館への来館者数				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		39000	37	目標	36000	37000	37000	37500
				実績	36313	38623	39305	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標		37500	38000	38000	38500	38500	39000	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
区内産業への関心の高さを確認するのに適している。								
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
改善・見直しのうえ継続		産業と観光の拠点として注目度は高まっている一方で、認定事業者による活動状況の違い、多様な事業者が参加しているメリットを活かしきれていないこと等から、十分な成果を実感できるまでには至っておらず、更新制の導入等によって認定事業者のクオリティの維持・向上を図っていくほか、これらの実施結果も踏まえ、産業施策全体のブランディングの再構築を行う。						

課題・問題点

- 1 認定事業者の活動状況の差
- 2 多様な事業者が参加する3M運動全体としてのメリットを活かしきれていないこと
- 3 すみだブランド等も含めた産業のブランディングに統一したコンセプトが必要であること

補助金名	マイスターものづくり事業補助金			主管課・係(担当)
根拠法令	マイスターものづくり事業補助要綱			産業振興課産業振興担当
補助概要	区内産業と区内生産品のイメージアップのために認定している「マイスター(Meister)」について、活動経費の補助を行っている。			03-5608-1437
目的	区内産業と区内生産品が「正当な評価」、さらに「より高い評価」を受けるようにするため、「マイスター(Meister)」を認定し、PR活動等の経費の補助を行うことでイメージアップを図る。			
対象	3M運動「マイスター」認定者			
基準	区独自基準			
補助条件	展示会、講習会等、技術の継承に資する活動に要する経費の補助 補助率3分の2、45万円限度			
経過	開始年度	平成元年度	終了予定	
	平成元年度 マイスター認定開始 平成26年度 3M運動30周年祭 平成30年度末 認定更新制の導入等のための要綱改正			
議会質問の状況				
その他特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 令和元年6月より認定更新制に伴う認定事業者へのヒアリング開始			

予算・決算額推移(千円)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
予算額(事業費)		450	450	450	450	450	450
決算額(令和元年度は見込み)		0	573	490	450	605	450
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		0	573	490	450	605	450
執行率(%)		0.0%	127.3%	108.9%	100.0%	134.4%	100.0%

補助金の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	補助金活用件数				単位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		5	37	目標	3	3	3	3
				実績	3	1	3	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	4	4	4	5	5	5
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	マイスターのPR活動実績に比例して補助金活用件数も増えるものとみられるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標					単位	
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
				目標				
				実績				
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標								
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
改善・見直しのうえ継続		産業と観光の拠点として注目度は高まっている一方で、認定事業者による活動状況の違い、多様な事業者が参加しているメリットを活かしきれていないこと等から、十分な成果を実感できるまでには至っておらず、更新制の導入等によって認定事業者のクオリティの維持・向上を図っていくほか、これらの実施結果も踏まえ、産業施策全体のブランディングの再構築を行う。						

課題・問題点	
<p>1 認定事業者の活動状況の差</p> <p>2 多様な事業者が参加する3M運動全体としてのメリットを活かしきれていないこと</p> <p>3 すみだブランド等も含めた産業のブランディングに統一したコンセプトが必要であること</p>	

補助金名	工房ショップ整備補助金			主管課・係(担当)
根拠法令	すみだ工房ショップ支援要綱			産業振興課産業振興担当
補助概要	区内産業と区内生産品のイメージアップのために認定している「工房ショップ(Manufacturing Shop)」について、施設整備・改修費の補助を行っている。			03-5608-1437
目的	区内産業と区内生産品が「正当な評価」、さらに「より高い評価」を受けるようにするため、「工房ショップ(Manufacturing Shop)」を認定し、施設整備・改修費の補助を行うことでイメージアップを図る。			
対象	3M運動「工房ショップ」運営事業者			
基準	区独自基準			
補助条件	補助率2分の1、150万円限度 その他の条件…①作業場と店舗が一体的に配置されていること。 ②店舗が15㎡以上、工房ショップの合計が30㎡以上あること。 2. 改修補助 補助率2分の1、150万円限度 その他の条件…①来訪者への利便を提供する空間(体験スペースや休憩所)の床面積が30㎡以上あること。 また工房と合わせて、床面積が60㎡以上あること ②土曜または日曜に開店日を設けること ③3M運動に積極的に協力すること			
経過	開始年度	平成10年度	終了予定	
	平成10年度 工房ショップ認定開始 平成26年度 3M運動30周年祭 平成30年度末 認定更新制の導入等のための要綱改正			
議会質問の状況	[平成30年決算] 工房ショップにおけるキャッシュレス化について [平成28年決算] 外国人向けツアー及び外国語パンフレットについて [平成28年基本計画特別委] 観光回遊について [平成28年1定] ホームページの外国語対応について			
その他特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 令和元年6月より認定更新制に伴う認定事業者へのヒアリング開始			

予算・決算額推移(千円)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
予算額(事業費)		3,000	4,500	3,000	3,000	1,500	3,000
決算額(令和元年度は見込み)		3,332	1,500	1,500	939	2,003	3,000
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		3,332	1,500	1,500	939	2,003	3,000
執行率(%)		111.1%	33.3%	50.0%	31.3%	133.5%	100.0%

補助金の 成果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	工房ショップ新規認定数				単 位	店舗
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		37	1	目標	1	1	1	1
				実績	0	1	0	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	1	1	1	1	1	1
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	区内産業の対外PRとしての拠点が增多ることがイメージアップにつながるため。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標					単 位	
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
				目標				
				実績				
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標								
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
改善・見直しのうえ継続		産業と観光の拠点として注目度は高まっている一方で、認定事業者による活動状況の違い、多様な事業者が参加しているメリットを活かしきれていないこと等から、十分な成果を実感できるまでには至っておらず、更新制の導入等によって認定事業者のクオリティの維持・向上を図っていくほか、これらの実施結果も踏まえ、産業施策全体のブランディングの再構築を行う。						

課題・問題点	
<p>1 認定事業者の活動状況の差</p> <p>2 多様な事業者が参加する3M運動全体としてのメリットを活かしきれていないこと</p> <p>3 すみだブランド等も含めた産業のブランディングに統一したコンセプトが必要であること</p>	

補助金名	3M運動PR実行委員会補助金		主管課・係(担当)
根拠法令			産業振興課産業振興担当
補助概要	区内産業と区内生産品のイメージアップのために認定している「小さな博物館(Museum)」「マイスター(Meister)」「工房ショップ(Manufacturing Shop)」について、PR活動等の経費の補助を行っている。		03-5608-1437
目的	区内産業と区内生産品が「正当な評価」、さらに「より高い評価」を受けるようにするため、「小さな博物館(Museum)」「マイスター(Meister)」「工房ショップ(Manufacturing Shop)」を認定し、PR活動等の経費の補助を行うことでイメージアップを図る。		
対象	3M運動認定事業者で構成される団体「3M運動PR実行委員会」		
基準	区独自基準		
補助条件	3M運動の活性化や墨田区のものづくりのPRを目的とした経費(総経費の10分の10の額、100万円限度)		
経過	開始年度	昭和60年度	終了予定
	昭和60年度 事業開始 昭和61年度 小さな博物館認定開始 昭和63年度 モデルショップ認定開始 平成元年度 マイスター認定開始 平成10年度 工房ショップ認定開始 平成21年度～ 3M運動スペシャルウィーク 平成26年度 3M運動30周年祭 平成30年度末 墨田区ものづくりプロモーション推進補助金交付要綱の制定 (本補助金を含む、ものづくり事業者によるプロモーション活動を支援する既存の3補助金を統合)		
議会質問の状況	[平成30年決算] 工房ショップにおけるキャッシュレス化について [平成30年2定] 小さな博物館とその他の企業博物館の連携について [平成28年決算] 外国人向けツアー及び外国語パンフレットについて [平成28年基本計画特別委] 観光回遊について [平成28年1定] ホームページの外国語対応について		
その他特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 平成30年度末の要綱制定に基づき新たに実施する補助金を活用したプロモーション事業について、令和元年度から申請の受付を開始する		

予算・決算額推移(千円)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
予算額(事業費)		10,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
決算額(令和元年度は見込み)		9,570	1,000	984	990	790	1,000
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		9,570	1,000	984	990	790	1,000
執行率(%)		95.7%	100.0%	98.4%	99.0%	79.0%	100.0%

補助金の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	補助金を活用した取組件数				単位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		10	37	目標	8	8	8	8
				実績	8	6	7	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	9	9	9	10	10	10
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	PR活動の活性化に比例して補助金を活用した取組件数が増えるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標					単位	%
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
				目標				
				実績				
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標						
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
改善・見直しのうえ継続		認定事業者による活動状況の違い、多様な事業者が参加しているメリットを活かしきれていないこと等から、十分な成果を実感できるまでには至っておらず、「ものづくりのまち」として統一したブランドイメージを強化するためのプロモーション活動を支援する事業として、既存事業と統合した新たなを制度に改める。						

課題・問題点	
<p>1 認定事業者の活動状況の差</p> <p>2 多様な事業者が参加する3M運動全体としてのメリットを活かしきれていないこと</p> <p>3 既存事業の統合後、新規プロモーション活動を行う事業者の発掘・開拓</p> <p>4 PR活動の将来的な自立化</p>	

事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	申込件数				単位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		17	R7	目標	9	15	15	15
				実績	12	25	38	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	16	16	16	17	17	17	
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	申込件数により必要性が確認できる。目標値については、平成29年度より海外販路拡張補助金事業と統合、また1企業でも産業展に出展することにより補助金申請ができるようになったことに伴い、申込件数が増加する見込み。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	交付件数				単位	件
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
17		R7	目標	9	15	15	15	
			実績	12	25	38		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	16	16	16	17	17	17		
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
交付件数により成果が確認できる。目標値については、平成29年度より海外販路拡張補助金事業と統合、また1企業でも産業展に出展することにより補助金申請ができるようになったことに伴い、申込件数が増加する見込みである。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	区内中小企業が販路を拡張するには展示会等の方法で広くPRしていくことが効果的であり、区が補助することで、経費負担を軽減し展示会等に出展することを後押しできる。

課題・問題点
区内生産品等販路拡張補助金の申請件数は増加傾向にある。 より多くの事業者にご利用いただくため、毎年のように申請する事業者や、同一年度に複数回申請する事業者について、取扱いを検討する必要がある。

補助金名称	区内生産品等販路拡張事業補助			主管課・係（担当）
根拠法令	区内生産品等販路拡張事業補助金交付要綱			経営支援課経営支援担当
補助概要	墨田区内の生産品等の販路拡張事業を実施する団体又は企業に対し、経費の一部を助成し、区内中小企業の振興を図る。			5608-6183
目的	区内中小企業の優れた技術等の発信や技術力の事業化を促し、大手企業に対する営業力強化・販路開拓支援によるビジネスチャンスの拡大により区内産業の活性化を図る。			
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・国内（団体）：区内に事業所を有する中小企業5社以上で構成される団体又はその支部で、国内販路拡張事業を行おうとするもの ・国内（1社）：区内に事業所を有する中小企業で、国内販路拡張事業のうち、産業展に出展しようとするもの ・海外：区内に事業所を有する中小企業で、海外販路拡張事業を行おうとするもの 			
基準	区独自基準			
補助条件	国内（団体）：補助対象経費の2分の1の額（1,000円未満切捨て）又は85万円のうち、いずれか少ない額 国内（1社）：補助対象経費の2分の1の額（1,000円未満切捨て）又は10万円のうち、いずれか少ない額 海外：補助対象経費の2分の1の額（1,000円未満切捨て）又は30万円のうち、いずれか少ない額			
経過	開始年度	昭和53年度	終了予定	
	昭和53年度 平成3年度 平成7～9年度 平成11年度 平成15年度 平成28年度 平成29年度	事業開始 対象事業に海外での展示会開催等を追加（限度額300万円） 産業国際交流事業補助（海外視察経費等 限度額500万円）の廃止 海外見本市出展支援事業を統合 海外見本市出展補助の休止（区財政上の問題及び都に類似の助成制度有） 海外販路拡張事業補助再開 国内（1社）販路拡張事業補助開始		
議会質問の状況				
その他特記事項	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等） 補助金申請受付：展示会等の出展1か月前まで 終了報告書：出展終了後2か月以内まで			

予算・決算額推移（千円）		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
予算額（事業費）		7,364	8,500	10,350	10,500	10,603	
決算額（令和元年度は見込み）		5,871	7,285	7,960	8,909	9,971	
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		5,871	7,285	7,960	8,909	9,971	0
執行率（%）		79.7%	85.7%	76.9%	84.8%	94.0%	#DIV/0!

補助金の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	申込件数			単位	件	
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		17	R7	目標	9	15	15	15
				実績	12	25	38	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	16	16	16	17	17	17
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	申込件数により必要性が確認できる。目標値については、平成29年度より海外販路拡張補助金事業と統合、また1企業でも産業展に出展することにより補助金申請ができるようになったことに伴い、申込件数が増加する見込み。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	交付件数			単位	件	
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		17	R7	目標	9	15	15	15
				実績	12	25	38	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標		16	16	16	17	17	17	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
交付件数により成果が確認できる。目標値については、平成29年度より海外販路拡張補助金事業と統合、また1企業でも産業展に出展することにより補助金申請ができるようになったことに伴い、申込件数が増加する見込みである。								
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
現状維持		区内中小企業が販路を拡張するには展示会等の方法で広くPRしていくことが効果的であり、区が補助することで、経費負担を軽減し展示会等に出展することを後押しできる。						

課題・問題点	
<p>区内生産品等販路拡張補助金の申請件数は増加傾向にある。</p> <p>より多くの事業者にご利用いただくため、毎年のように申請する事業者や、同一年度に複数回申請する事業者について、取扱いを検討する必要がある。</p>	

事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	相談件数				単位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		80	令和7年度	目標	80	80	80	80
				実績	52	67	20	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	80	80	80	80	80	80	
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	指標の選定理由: 相談が知的財産権取得補助金の交付対象者の要件の一つとなっているため。 目標値の理由: 過去5年間の相談件数の平均値をキープする。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	交付件数				単位	件
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
12		令和7年度	目標	12	12	12	12	
			実績	9	18	14		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	12	12	12	12	12	12		
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
指標の選定理由: 具体的な成果の件数を把握できるため。 目標値の理由: 現状の予算の範囲内で最大限に交付できた場合の件数。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	自社の権利を保護するためには、知的財産権の取得は極めて有効な手段であり、今後も区内企業からのニーズはあると想定される。また、知的財産権取得に係る経費は先行技術調査や出願料、弁理士手数料等多岐にわたり、区内企業が積極的に取得を行うためには本事業は引き続き必要である。

課題・問題点
知的財産権の取得には多額の申請経費がかかるため、区が経費の一部補助をすることで、区内中小企業者の商品開発意欲を促すことができるが、補助金交付後の効果検証が難しく、有効性の全体像を客観的に把握することが困難となっている。

補助金名称	墨田区知的財産権取得補助金		主管課・係（担当）			
根拠法令	墨田区知的財産権取得補助金交付要綱		経営支援課・経営支援担当			
補助概要	区内の中小企業が特許権等の知的財産権取得のための出願等に要した経費の一部を補助する。		5608-6183			
目的	区内の中小企業が特許権等の知的財産権取得のための出願等に要した経費の一部を補助することにより、中小企業における新たな開発や事業創出等に対する意欲を助長し、区内産業の製品開発力の強化を図り、区内産業の活性化に寄与する。また、知的財産の保護・活用を促進し、他社との差別化や競争力の向上など、企業の経営体質強化につなげる。					
対象	中小企業基本法に規定する中小企業者で墨田区に本社を有するもの。また、個人事業者の場合は墨田区に事業所を有するもの。					
基準	区独自基準					
補助条件	①対象となる知的財産は「特許権、実用新案権、意匠権、商標権（国内出願に限る）」で、出願から1年以内であること ②区内に主たる事業所を有する中小企業者で、区内で引き続き1年以上事業を営んでいること ③知的財産権の活用事業計画があること ④大企業が実質的に経営に参画していないこと ⑤対象となる経費は出願料、出願審査請求料、特許料、登録料、出願・取得に係る手続きを弁理士や弁護士に委託した場合の報酬 ⑥補助金額は補助対象経費の2分の1以内かつ上限20万円					
経過	開始年度	平成24年度	終了予定			
	平成24年度より事業開始 交付件数 平成26年度 11件、平成27年度 9件、平成28年度 9件、平成29年度 18件、平成30年度 14件					
議会質問の状況						
その他特記事項	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等） 特許庁への出願から1年以内の案件を対象としている。					

予算・決算額推移（千円）		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
予算額（事業費）		1,400	1,400	1,400	2,800	2,102	2,102
決算額（令和元年度は見込み）		1,204	1,118	1,318	2,548	1,987	2,102
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		1,204	1,118	1,318	2,548	1,987	2,102
執行率（%）		86.0%	79.9%	94.1%	91.0%	94.5%	100.0%

補助金の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	相談件数（知的財産権）			単 位	件	
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		80	令和7年度	目標	80	80	80	80
				実績	52	67	20	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	80	80	80	80	80	80
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	指標の選定理由：相談が知的財産権取得補助金の交付対象者の要件の一つとなっているため。 目標値の理由：過去5年間の相談件数の平均値をキープする。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	交付件数			単 位	件	
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		12	令和7年度	目標	12	12	12	12
				実績	9	18	14	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標		12	12	12	12	12	12	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
指標の選定理由：具体的な成果の件数を把握できるため。 目標値の理由：現状の予算の範囲内で最大限に交付できた場合の件数。								
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
改善・見直しのうえ継続		自社の権利を保護するためには、知的財産権の取得は極めて有効な手段であり、今後も区内企業からのニーズはあると想定される。また、知的財産権取得に係る経費は先行技術調査や出願料、弁理士手数料等多岐にわたり、区内企業が積極的に取得を行うためには本事業は引き続き必要である。						

課題・問題点	
<p>知的財産権の取得には多額の申請経費がかかるため、区が経費の一部補助をすることで、区内中小企業者の商品開発意欲を促すことができるが、補助金交付後の効果検証が難しく、有効性の全体像を客観的に把握することが困難となっている。</p>	

事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	市 開催回数				単 位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		4	令和7年度	目標	2	2	2	2
				実績	2	2	2	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	3	3	3	4	4	4	
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	地場産業をPRする「イチ」の開催を確認できるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	市 来場者数				単 位	人
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
20000		令和7年度	目標	15000	15000	15000	15000	
			実績	14500	14000	13000		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	16000	16000	17000	19000	19000	20000		
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
来場者数の増加により、本事業の認知度が高まり、地場産業のPRIにつながるため。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
統合や縮小を検討	現在実施しているすみだガラス市は、全国でも珍しいガラス器だけの市として、近隣地域はもとより地方からの来場者も多く、知名度が着実に増してきている。区の産業をPRする場に留まらず、区の観光資源としても重要であることから、現状の実施体制を踏まえ、「ものづくりのまち」として統一したブランドイメージを強化するためのプロモーション活動を支援する事業として、既存事業と統合した新たなを制度に改める。

課題・問題点
<ul style="list-style-type: none"> ・既存事業の統合後、新規プロモーション活動を行う事業者等の発掘・開拓 ・各プロモーション活動の将来的な自立化

補助金の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	市 開催回数			単 位	回	
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		4	令和7年度	目標	2	2	2	2
				実績	2	2	2	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	3	3	3	4	4	4
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	地場産業をPRする「イチ」の開催を確認できるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	市 来場者数			単 位	人	
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		20000	令和7年度	目標	15000	15000	15000	15000
				実績	14500	14000	13000	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標		16000	16000	17000	19000	19000	20000	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
来場者数の増加により、本事業の認知度が高まり、地場産業のPRにつながるため。								
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
統合や縮小を検討		現在実施しているすみだガラス市は、全国でも珍しいガラス器だけの市として、近隣地域はもとより地方からの来場者も多く、知名度が着実に増してきている。区の産業をPRする場に留まらず、区の観光資源としても重要であることから、現状の実施体制を踏まえ、「ものづくりのまち」として統一したブランドイメージを強化するためのプロモーション活動を支援する事業として、既存事業と統合した新たなを制度に改める。						

課題・問題点	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存事業の統合後、新規プロモーション活動を行う事業者等の発掘・開拓 ・ 各プロモーション活動の将来的な自立化 	

事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	アウトオブキッズニアinすみだ参加事業者数				単位	社
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		10	35	目標	6	6	7	8
				実績	6	6	6	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	8	9	9	10	10	10
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	本プログラムへの参加事業者数の増加は、実施プログラム内容の充実につながるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	アウトオブキッズニアinすみだ子ども体験者数				単位	人
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
2100		35	目標	1300	1500	1650	1800	
			実績	1360	1173	1262		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		1800	1950	1950	2100	2100	2100	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
アウトオブキッズニアinすみだの体験者数増加により、墨田区産業及び墨田区の認知度向上につながり、「ものづくりのまち すみだ」を区内外にPRするきっかけとなるため。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	将来的な自立化に向けて、関係者の役割見直し等によるコスト削減、価格設定の見直し等による収益向上を図っていく。

課題・問題点
<ul style="list-style-type: none"> ・補助金に依存した実施状況 ・参加事業者の減少

補助金名称	アウトオブキッズニアinすみだ運営協議会補助金		主管課・係（担当）
根拠法令			産業振興課産業振興担当
補助概要	区内の工房・工場での職業体験プログラムの開発・販売事業に参加する区内事業者によって構成する「アウトオブキッズニアinすみだ運営協議会」に対して、事業経費を補助する。		03-5608-1437
目的	子どもたちの職業体験プログラムを提供することで、ものづくりと観光の融合が図られたまち「すみだ」の実現を図る。		
対象	「アウトオブキッズニアinすみだ」参加事業者		
基準	区独自基準		
補助条件	①プログラム開発経費助成 補助率2/3 ②プログラムクオリティチェック費助成 補助率2/3 ③体験商品の企画・PR・販売経費助成 補助率3/4 ※③は参加事業者数による頭割りとなるが、各社の負担は10事業者が参加した場合の額とし、その事業者数に満たなかった分は区が負担している。		
経過	開始年度	平成22年度	終了予定
	平成24年度	子ども向けの職業体験プログラムとして事業開始（参加企業8社） 東京彫刻工業が新規参加（参加企業9社） 東京彫刻工業、KAMISM Lab. が脱退（参加企業7社）	
平成26年度	すみだ江戸切子館、紗蔵が脱退（参加企業5社）		
平成27年度	中学生向け教育旅行プログラム「すみだジュニアマイスター」を販売開始		
平成29年度	小倉メリヤス製造所が新規参加（参加企業6社） 大人向けの研修プログラム「地恵のたび」を販売開始		
平成30年度	浜野製作所が脱退（参加企業5社）		
議会質問の状況	[平成27年4定] アウトオブキッズニアinすみだとスミファの連携について [平成25年1定] アウトオブキッズニアinすみだの実績・成果について		
その他特記事項	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等） 平成26年より、江東区にて「アウトオブキッズニアin KOTO」がスタート。 今後の連携について協議中。		

予算・決算額推移（千円）		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
予算額（事業費）		4,945	4,375	3,787	3,214	3,298	3,227
決算額（令和元年度は見込み）		3,109	2,912	2,238	2,738	2,124	3,227
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		3,109	2,912	2,238	2,738	2,124	3,227
執行率（%）		62.9%	66.6%	59.1%	85.2%	64.4%	100.0%

補助金の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	アウトオブキッズニアinすみだ参加事業者数			単位	社	
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		10	35	目標	6	6	7	8
				実績	6	6	6	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	8	9	9	10	10	10
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	本プログラムへの参加事業者数の増加は、実施プログラム内容の充実につながるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	アウトオブキッズニアinすみだ子ども体験者数			単位	人	
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		2100	35	目標	1300	1500	1650	1800
				実績	1360	1173	1262	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標		1800	1950	1950	2100	2100	2100	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
アウトオブキッズニアinすみだの体験者数増加により、墨田区産業及び墨田区の認知度向上につながり、「ものづくりのまち すみだ」を区内外にPRするきっかけとなるため。								
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
改善・見直しのうえ継続		将来的な自立化に向けて、関係者の役割見直し等によるコスト削減、価格設定の見直し等による収益向上を図っていく。						

課題・問題点	
<ul style="list-style-type: none"> ・補助金に依存した実施状況 ・参加事業者の減少 	